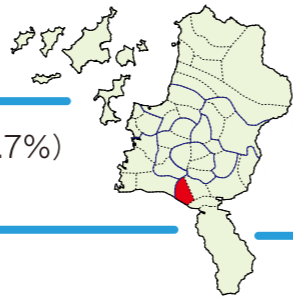


# 石井西地区

人口: 28,810人 (高齢化率25.7%)  
世帯数: 14,447世帯

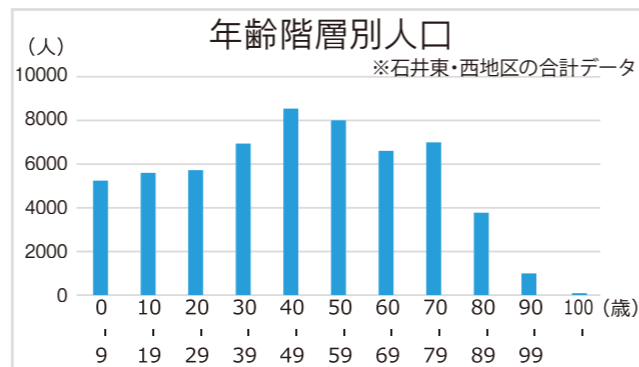


## 【地区の特色】

石井西地区は、松山市の南部に位置し、北部を西に流れる石手川・小野川、南部を西に流れる重信川・内川に囲まれた肥沃な穀倉地帯として発展してきた。近年、急速に市街化が進行したのは地理的・社会生活上の諸条件にも恵まれているためである。特に、地区の中心部に市道千舟古川線(古川はなみずき通り)や市道北久米和泉線が整備され、市民の散歩道として利用されるほか、松山市保健センター南部分室・南部児童センターが開所され、多くの市民に利用されている。



松山市はなみずきセンター



## 【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療、教育、買い物等、生活関連は揃っていて便利で人気のエリアである</li> <li>・閑静な住宅街が多い</li> <li>・高齢者の社会参加が活発である</li> <li>・道路網が整備されており、市内市外移動は便利である</li> <li>・子育てしやすい町づくりに取り組んでいる</li> <li>・高齢者に優しい取り組みをしている</li> <li>・近隣高校の生徒が南部児童センターで地域の子供たちと交流している</li> </ul>
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公共の交通機関がバスしかないため、車の移動が多く道路の渋滞がはげしい</li> <li>・マンション、新興住宅が増え、人と人との関わりが希薄である</li> <li>・高齢化が進んでいるが対策が進んでいない</li> <li>・地域によっては水害が起きた時に避難出来る場所が限られている</li> </ul>
福祉課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者が増え、地域社会への参加が少ない</li> <li>・町内への関心が遠のいている</li> <li>・地域によっては交通機関が限られており、移動が困難な高齢者等も居る</li> <li>・近隣の人間関係が少なくなっている</li> <li>・世代間の交流がなくなっている</li> <li>・子供の減少、遊び場がなくなっている</li> <li>・若い世代の町内行事等への参加が少ない</li> <li>・町内の担い手(町内の役員や民生委員など)がいない</li> <li>・障がい者、独居、母子、父子家庭など個人情報保護があり、手助けしにくい</li> <li>・人口に対して集会所が少ない</li> <li>・駐車場がない集会所があり、利用しづらい</li> <li>・多くの人に利用してもらえるよう集会所をバリアフリーにしてほしい</li> <li>・町内放送、防災無線が聞こえにくい</li> <li>・住民の防災意識をひき続き高めていく必要がある</li> </ul>

# 石井西地区社会福祉協議会 石井西 やすらぎのまち 愛の町

<拠点> 松山市居相1丁目8-26石井支所2F TEL:089-956-0248 / FAX:089-958-9962

構成団体	地区民協・公民館・町内会・まちづくり協議会		
主な取り組み	活動内容		
福祉だよりの発行	年3回発行。地区社協活動についての周知啓発と、イベントの参加募集を実施、若い世代からの参加者の拡大に努めています。		
災害に備えた取り組み	避難行動要支援者名簿の作成と更新及び「無事ですフラッグ」を利用した安否確認を防災訓練時に実施しています。		
高齢者の社会参加や交流の促進	ふれあい・いきいきサロン(緩和型含む)、地域交流サロン、福祉交流会の開催をしています。		

## 子育てパパ&ママのための防災講座

令和4年度からスタート。乳幼児を抱えてがんばっているパパやママのために、子供がいる家庭に特有の防災対策や避難生活について、気軽に参加できるオンライン講座で情報を提供しています。また、夏休みには、幼児から小学生・保護者を対象に、ゲームを通じて防災について学ぼうと『親子防災講座』を開催しています。



## <地区社協が目指すもの>

石井西地区では、コロナ下においてもオンラインの活用等、社会情勢に左右されることなく地域のつながりを切らさない方法を考え、活動してきました。また、「認知症になっても安心して暮らせる地域づくり」に向けて、認知症サポーター養成講座、認知症キッズサポーター養成講座及び地域での声かけ訓練にも継続して取り組んでいます。こういった活動は災害時の助け合いにもつながっていくと考えています。今後も、地区の関係機関や諸団体との連携・協働を大切に、住民誰もが心豊かに暮らし続けることができる地域づくりを目指します。

地区の状況	■地区民協	44名	■町内会・自治会・区長会等	21団体	
	民生委員		3名	■高齢クラブ	16クラブ
	主任児童委員			■子ども会	10団体
	■まち協の設立	平成23年度	■自主防災組織	19組織	

子育て世代が多い地区であるため、認知症サポーター養成講座のほか、オンラインでの子育てパパ&ママのための防災講座、「無事ですフラッグ」を利用した安否確認など世代間共通の課題で尚且つ、地域課題をテーマとした取り組みが活発であるといえます。これらの取り組みをさらに発展させ子どもから高齢者まで、多世代間が参加する防災・減災活動の場の創造が期待できる地域だといえるでしょう。



